

事業計画書

2016年度

自 2015年7月1日 至 2016年6月30日

公益財団法人プラン・ジャパン

【2016年度 事業計画サマリー】

2013-2015 年度の中期事業計画では、海外派遣人材登録制度を導入し積極的に人材育成に取り組み、また外部から人材活用なども行った。その結果、2015 年度では、特別プロジェクトや公的資金などにおいて収入目標は達成が確実だが、継続支援者数の獲得目標は未達となる見込みである。これらを踏まえ、新たに 2016 年 - 2018 年度中期事業計画を策定し、本年度はその初年度として支援者を含めたより多くの方々から認知・信頼され、質の高い事業を遂行し、安定的な財源を確保しつつ目標と使命を達成していく。

2016-2018 年度の中期事業計画の主要方針としては、「子どもの権利とジェンダー平等の実現を推進する」ことを掲げ、これを達成するため以下 3 つの柱を強化していく：①認知の拡大、②事業の質の向上、③財源の確保。これらは相互に補強・補完しあいながら、相乗効果を高めていく。また、3 つの柱を支える土台として、④チャレンジする組織文化を実現する。

途上国の女性・女の子を取り巻く厳しい環境の改善をテーマとする、“Because I am a Girl(略称：BIAAG)” キャンペーンは 2013 年度から取り組んでいるが、本年度も引続き、活動の中心に据え、あらゆる支援に繋がる動機として最大限活用していく。更に多くの人に認知・支援され、その結果が着実により困難な状況にある途上国で生きる多くの子どもたちへの支援に繋がる様、組織体制の変革を実行し、効果的な公益目的事業を達成していく。

2016 年度の事業面においては、プラン・インターナショナル（以下 PII）の一員として PII の中期事業計画「One Plan, One Goal」にもとづくグローバルの事業運営モデル（Business Operating Model=BOM）と歩調を合わせつつ、新たなブランドイメージを積極的に展開し、プラン・ジャパンの中期事業計画達成に向けた各施策の実行に繋げていく。また、ポスト 2015 年開発アジェンダを踏まえ、特に女性や女の子、途上国支援をめぐる国内外の潮流などに適応しながら、引き続き「国際ガールズ・デー」（2015 年 10 月 11 日）を盛り上げる。これにより途上国支援へより多くの市民や企業からの認知、理解、支援を獲得し、賛同者の定着化と拡大を目指す。更に、成長著しいアジアでの開発市場における PII のグローバル戦略を側面的に支援し積極的に貢献していく。

財務面においては、支援者サービスにおけるデジタル化に取り組み、利便性の向上と、より支援者に軸足を置いたサービス対応を強め、スポンサーシップの長期的な漸減傾向に歯止めをかける。また、BIAAG の受け皿となる一般プロジェクトや国内外における公的資金獲得などへ投資を行い、安定的な収入を確保し、途上国での活動資金の最大化を図る。支出に関しては、集中と選択を更に加速させ、成長のための投資と経費の適正な引き締めを行う。その結果、プログラム実施費は 23 億円を維持し、途上国の子どもたちのニーズに立脚し、社会的発展や経済成長から取り残されている子どもたちに焦点をあてた支援活動を実施していく。

プランの目標 (VISION) 人々の権利と尊厳が守られ、すべての子どもが能力を最大限に発揮できる世界を実現する

プランの使命 (MISSION)

1. 子ども、家族、地域の人々が、人間としての基本的な生活条件を備え、社会活動に参加し、自立を達成できるよう支援する
2. 異なる国籍や文化を持つ人々の相互理解を深め、皆が協力できる関係を築く
3. 世界中の子どもたちの権利と利益の確立を図る

プランの活動分野

- | | | | |
|----------|-----------|------------------|---------|
| 1. 教育 | 2. 保健 | 3. 性と生殖に関する健康と権利 | 4. 水と衛生 |
| 5. 家計の安定 | 6. 子どもの参加 | 7. 子どもの保護 | 8. 緊急支援 |

プラン・ジャパン 2016 年度～2018 年度：中期事業計画における主要方針

- ・認知の拡大（多くの人に知られ日本を代表する NGO を目指す）
- ・事業の質の向上（信頼される質の高い事業を実施する）
- ・財源の確保（収入総額を増やしプログラムへの充当額を増やす）
- ・チャレンジする組織文化の実現（現状にとらわれず組織目標達成に向かってチャレンジし、多様性を重んじる組織文化を実現する）

【事業概要】

本財団の目的を達成するため、PII と連携・協力しつつ、想定される環境と機会を最大限に活かして組織的かつ積極的に攻め、以下の事業を行う。

I. 公益目的事業 1.

民間の国際相互理解を促しながら行う経済協力として、途上国における地域開発支援、緊急支援、復興支援を行う。

本年度も BIAAG キャンペーンを中心に、途上国の子どもたちが抱える課題と支援の必要性を訴え、より困難な状況に生きる子どもたちを包含した支援を実施する。スポンサー、マンスリー・サポーター、Girl's Project などの継続支援者数増加を目指し、プラン・ジャパンの活動の認知拡大、新規支援者の獲得とデジタル化を導入して支援者の定着を図り、当期収入総額 32 億 4,000 万円（経常収益総額同額）を目標とする。このうち、途上国での活動に向けたプログラム費は総額 23 億 5,000 万円となる見込みであり、これをもって途上国における以下 7 つのスキームによる支援活動を実施し、進捗確認を確実に行いつつ、成果を支援者に報告していく。

支援実施に際しては、効果を常に意識した案件形成・進捗管理に努めることはもとより、支援者への報告としては、年次報告書、機関誌（年 3 回）、その他各種報告書、メールマガジン、ウェブサイトなどを通じ時宜を得た情報提供、透明性の確保とアカウンタビリティの更なる向上を心がける。また、国内各地の支援者による自主的活動であるプラン支援者の会との連携・信頼関係を維持し、報告会や説明会など具体的な活動を共に行うことにより、国内各地における途上国支援への認知拡大、支援の輪を広げていく。

1. プラン・スポンサーシップ（2016 年度プログラム費：1,239,507 千円、同プログラム費はスポンサーシップ寄付金より拠出）

プラン・ジャパンを含む 22 カ国の支援国による共同事業。本年度も引き続き、活動国 51 ヶ国において、事業戦略と現地のニーズを反映し、教育・保健・水と衛生など 8 つの活動分野を中心とする課題に総合的に取り組む地域開発プロジェクトを計画・実施していく。子どもたちの成長を継続的支援で見守る魅力、及びその活動成果は、報告書、手紙などを通じて日常的に支援者（スポンサー）に伝えていくことを強く意識し、活動をより身近に感じていただくことを目指す。

2014 年度から導入している新寄付者管理システムによる業務改善、スポンサー対応の質的向上と効率化を目指すとともに、支援中止によるチャイルド数の減少に歯止めをかけるべく、活動国事務所と連携を一層深め、スポンサー・チャイルド間の交流促進、相互理解の向上に資するよう取り組んでいく。全国約 700 名の翻訳ボランティアや、事務局来局ボランティアの協力を得ながら、年間約 10 万通（うち翻訳 6 万通）に及ぶスポンサー・チャイルド間コミュニケーションの充実を目指し、スポンサーからの期待に応えていく。また、活動の内容や成果への理解、支援する喜び、満足感をこれまでより深めていただけるよう、より質が高く効率的なサービスを提供していく。

2. プラン・マンスリー・サポーター（2016 年度プログラム費：235,944 千円、同プログラム費はマンスリー・サポーター寄付金の一部より拠出）

本年度も本スキームのテーマである子どもを取り巻く社会問題に引き続き取り組む。地域開発を通じて子どもを暴力や虐待、搾取から守り、子どもが権利を行使できるよう支援を継続するとともに、各カテゴリーに関する政策の推進を活動国政府に働きかけていく。2016 年度のプロジェクトは以下の通り、5 カテゴリーで計 12 件を予定。

<2016 年度 支援実施予定プロジェクト>

| カテゴリー | 対象 | 主な内容 |
|---------------------|---|---|
| ストリート・チルドレンと働く子どもたち | 2カ国 (2プロジェクト) ネパール、エジプト | 児童労働防止、教育・就業支援、トラウマケアなど |
| 障がいのある子どもたち | 3カ国 (3プロジェクト) トーゴ、インド、グアテマラ | 機能回復訓練、インクルージョン教育の推進、職業訓練、意識啓発など |
| HIV とエイズに苦しむ子どもたち | 2カ国 (2プロジェクト) インド、カメルーン | HIV 検査・治療、意識啓発、予防教育など |
| 紛争や災害に巻き込まれる子どもたち | 6カ国 (4プロジェクト) 南スーダン、スリランカ、カンボジア、ミャンマー、ベトナム、タイ (アジア地域統括事務所) | 子どもの保護、教育再開支援、職業訓練、意識啓発、栄養改善、災害に強い学校モデル・防災マニュアル作りなど |
| 虐待される子どもたち | 1カ国 (1プロジェクト) カメルーン | 子どもの保護、医療サービスの提供、意識啓発、社会システム強化など |
| 計 12 カ国 12 プロジェクト | | |

※ 実施国、プロジェクトなどは状況に応じて期中に変更・追加することがある

3. プラン一般プロジェクト (2016 年度プログラム費：179,051 千円、同プログラム費はプロジェクト特定寄付金、プロジェクト無特定寄付金、メモリアル・ファンド利息収益、及びマンスリー・サポーター寄付金の一部より拠出)

BIAAG の主要テーマである「女子教育」、「職業訓練」、「生計向上」に「性と生殖」を新たなテーマに加えて案件を選定。また、同じアジアの国として、台風 30 号で被害を受けたフィリピンにおける教室校舎建設案件を手掛けるとともに、外務省による公的資金とのマッチングでより大きな効果を生む案件も継続。さらに現地のニーズと国内の潜在的な関心が双方とも高い「水と衛生」、「母子保健」、「栄養改善」の各案件を加え、2016 年度のプロジェクトは以下の計 9 件を予定。

<2016 年度 支援実施予定プロジェクト>

| 対象国 | テーマ | 主な内容 |
|-----------------|------------------------|---|
| ネパール | 母子保健改善 | ジャナクプル県シンドゥリ郡での、超音波診断装置を用いた移動型の妊婦健診など |
| フィリピン | 教育改善 | 台風 30 号の被害をうけた東サマル州の 2 の小学校での、教室校舎建設など |
| ラオス | 水と衛生 | ウドムサイ県ホン郡の 4 村での、重力式給水設備の新規建設・既存修繕、水管理委員会設立など |
| マラウイ | 栄養改善 | 2015 年 1 月の洪水被害をうけた南部州ムランジェ県での、食糧の安定供給を目指した農業技術トレーニングや母乳育児の普及など |
| インド | 女子教育 (BIAAG 対象) | アンドラ・プラデシュ州とオリッサ州での、指定部族の子どもたち (主に女の子) を対象とした奨学金支給など |
| ジンバブエ | 女子教育 (BIAAG 対象) | ミッドランズ州での女子寄宿舎建設など |
| カンボジア | 女の子の職業訓練 (BIAAG 対象) | 若年層の女性対象の職業訓練と就業支援など |
| ウガンダ | 女の子の生計向上 (BIAAG 対象) | カムリ県とトロロ県での若年層の女性対象の村落貯蓄貸付組合への支援、起業支援、農業技術支援など |
| コロンビア | 女の子の性と生殖 (BIAAG 対象) | スクレ県での 10 代の女性を中心とした家族計画、望ましい育児法トレーニングなど |
| 計 9 カ国 9 プロジェクト | | |

※ 実施国、プロジェクトなどは状況に応じて期中に変更・追加することがある

4. プラン特別プロジェクト (2016 年度プログラム費：279,000 千円、同プログラム費はプロジェクト特定寄付金より拠出)

現地のニーズと個人・企業からの途上国への関心、要望が合致するプラン・ジャパン独自のプロジェクトを活動国事務所と協議の上その都度形成し、2016 年度は前年度以上の規模による支援の実現を目指す。特に企業においては、各業界との関係性構築の広がりを模索しつつ、企業にとってより親和性の高い支援プロジェクト、BIAAG キャンペーンにおける協働プロジェクトの形成を中心に、新規企業からの支援獲得や企業との新しい連携の実現に取り組んでいく。

5. プラン・メモリアル・ファンド (2016 年度プログラム費：360 千円、同プログラム費はメモリアル・ファンド利息収益より拠出)

保有するメモリアル・ファンドからの利息収入を、支援者の要望を踏まえつつ、本年度に活動国において実施するプラン一般プロジェクトなどに充当する。

6. 緊急・復興支援 (2016 年度プログラム費：11,520 千円、同プログラム費はプロジェクト特定寄付金より拠出)

海外での緊急・復興支援は、PII 加盟支援国による共同事業もしくはプラン・ジャパンによる単独事業として、本年度も引き続き災害の初期・進捗情報、活動国からの要請を敏感に捉えて都度支援を検討・決定、実行していく。PII としての重点活動分野のひとつでもあり、組織全体として災害へ備え、国際的に貢献することを目指す。

7. 公的資金など (2016 年度プログラム費：404,500 千円、同プログラム費は受取補助金等、事業収益及び受取利息等より拠出)

前年度に引き続き、獲得済みである以下 7 事業 (*) の確実なる実施管理を行い、既に申請済み並びに新規に申請予定の獲得に向けフォローを確実に行う。また広く情報収集・分析を行い、新規ドナー/スキーム開拓により戦略的な資金獲得を目指す。*世界銀行：ベナン/地域住民の栄養改善事業、外務省 NGO 連携無償資金：ベトナム/少数民族地域における教育改善事業、ハイチ/水衛生環境改善事業、インド/栄養改善事業、米州開発銀行：グアテマラ/栄養改善事業、WFP：カンボジア/栄養改善事業、アジア開発銀行：フィリピン/台風ハイエン復興事業。

II. 公益目的事業 2.

本年度も引き続き BIAAG を広報、アドボカシー、開発教育への取り組みの最優先に掲げるとともに、プランが重視する「子どもの権利」「ジェンダー平等」について、より多くの人々からの理解、認知、共感の獲得及び定着化を目指す。有識者や専門家との連携・協働のほか、G-School やプラン・フレンズを活性化し、あらゆるステークホルダーを巻き込みながら、途上国が抱える様々な課題や開発支援に関する理解を促進し、「知る」からその先の「行動」へと促す機会の拡大につなげていく。主な活動は以下の通り。

1. 広報

2016 年度で 4 年目となる国際ガールズ・デーイベントをはじめとする各種イベントの実施、話題づくり・巻き込みとネットワークの拡大、外部イベントへの参加、重点地域での活動報告会の実施、G-School 活動の活性化、メディアへのアプローチの強化、各種情報発信ツールの充実など (ウェブサイト掲載内容の見直し、機関誌と報告書のリニューアル、オンラインと紙媒体の連携の見直しなど) の具体的な動きにより、BIAAG キャンペーンを盛り上げ、プラン・ジャパンの認知度向上を目指す。前年度に出版した途上国の女の子をテーマにした本を PR に活用することで、ジェンダーにおけるリーディング NGO として発信を行っていく。

2. アドボカシー

プランがグローバルで策定したアドボカシー戦略に基づき、日本政府の政策もフォローしつつ、より多くの市民に支えられた、政策にインパクトを与えることのできるアドボカシーを実践する。また、2015年はMDGsの最終年度でもあり、ポスト2015年開発アジェンダ策定の方向性を踏まえ、すべての子どもや若者の権利が守られ、ジェンダー平等を実現できるよう、国際レベルでのアドボカシーの成果を発信すると同時に、提言書やレポートを活用しながら、日本政府への政策に影響を与えられるよう、支援国としての役割を果たしていく。また有識者、著名人、国会議員等との連携・協働を深め、専門性と情報発信力の強化による連携性の確立、賛同者・アクターの育成、各種ネットワークとの連携強化と提言活動の実践などに取り組む。主な活動は以下の通り。

- ・ メディアへの投稿等による情報発信、外務省への政策提言
- ・ 「プラン・アカデミー」の実施：BIAAGやジェンダー平等をテーマとする参加型連続講座
- ・ 各種ネットワークや枠組みへの参加・連携強化とアドボカシー・キャンペーンの実施：NGO・外務省定期協議会、NGO-JICA協議会、外務省GII/IDI懇談会、公益法人協会、JNNE（教育協力NGOネットワーク）、動く→動かす、児童労働ネットワーク（CL-Net）、ポスト2015NGOプラットフォーム
- ・ 国会議員、ジェンダー専門家とのネットワーキング

3. 開発教育

「子どもの権利」と「ジェンダー平等」の実現のために、日本の子どもたち（特に高校生を中心とするユース層）が、プランの活動現場における問題に関する関心や理解を深め、自分との関わりを考え、問題解決に向けて行動する力を育む機会を提供する。そのための「触媒」として教員や教育機関などと連携をして活動を進める。現場をもつ国際NGOだからこそできる、“途上国の今”や“途上国の女の子の現状と可能性”を発信していく。主な活動は以下の通り。

- ・ 講師派遣：高校、中学、大学などでの授業・講演
- ・ 読書感想文コンクールの実施：中高生を対象とした、BIAAGやジェンダー平等をテーマとする課題図書を設定したコンクール
- ・ 教育関係者、ジェンダー専門家とのネットワーキング
- ・ 開発教育ボランティア「プラン・フレンズ」との協働

III. その他、組織・事業全体に資する活動および管理部門

本財団の事業全体に関わり、公益目的事業1、2の実行に必要な活動を行う。主な活動は以下の通り。

- ・ PIIのメンバーズ総会と関連各委員会、グローバル・マネージメント委員会、ナショナル・ディレクターズ会議、その他各業務に有効な会議への役職員派遣などを通じ、国際組織内の重要な意思決定や協議へ参画し、情報共有・調整・協力体制の確立に最大限貢献していく。
- ・ PIIの一員として、成長著しいアジアでの開発市場の発展及び開発課題の解決のため、アジアでの支援国と協調しつつ貢献し、且つプラン・ジャパンの実績に繋げる様、側面支援を行う。
- ・ 国際協力NGOセンター、公益法人協会への経営参加により、NGO並びに公益法人セクターの能力強化に貢献していく。
- ・ 世界銀行東京事務所と連携し、世界銀行がPIIと実施中である、ポスト2015年開発アジェンダを見据えた貧困削減活動を側面的に支援していく。
- ・ リスク・マネージメントを徹底し、プラン・ジャパンを取り囲むリスクを事前に把握、低減化・回避措置を行い、経営基盤の強化を図る。
- ・ 意思決定にユース視点を取り入れること目指した、ユース・アドバイザー・パネルの運営。
- ・ 迅速・機動的な対応を可能とする戦略的な事務局人員体制の見直しを行い、多角的な人材活用と育成、職員の能力、専門性向上にむけた体系的な取り組みを行う。

以上